黄金水大画益

六編

貴 13
3901
13

門へ13
3991
1カ

延辛酉新板目録

兒雷也豪傑譚 三十七編 三十八編 三十九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

風俗淺間嶽 十編 十一編 十二編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

女郎花五色石臺 八編 九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

不思議塚小說櫻 初編 二編 三編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

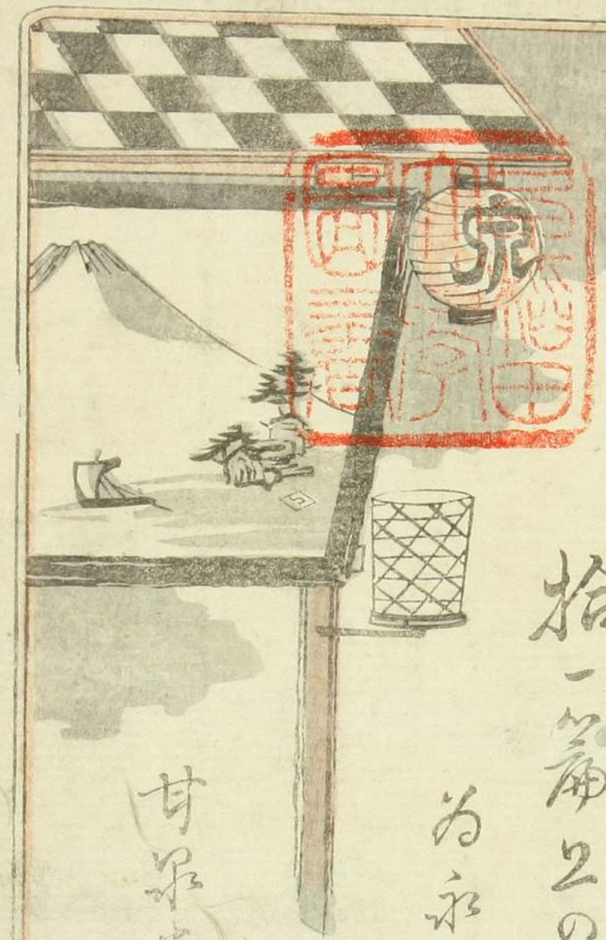
芙蓉丹大唐杯

拾一篇之の巻

為永春水作

歌川

國芳画

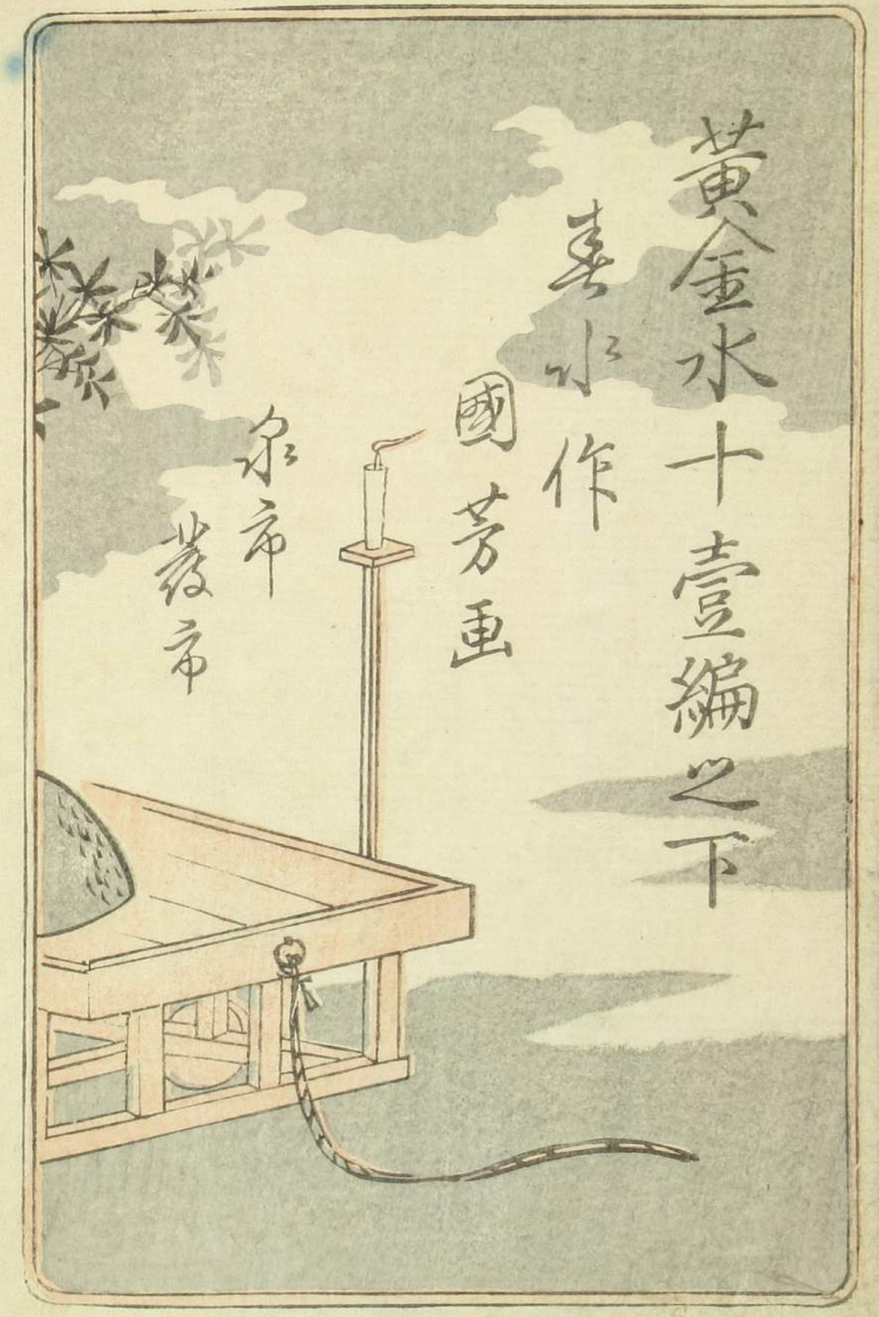


甘泉堂

玉芳画
芳盛水大尽孟
玉水作
上
下

黄金水十壹編之下

春水作
國芳画



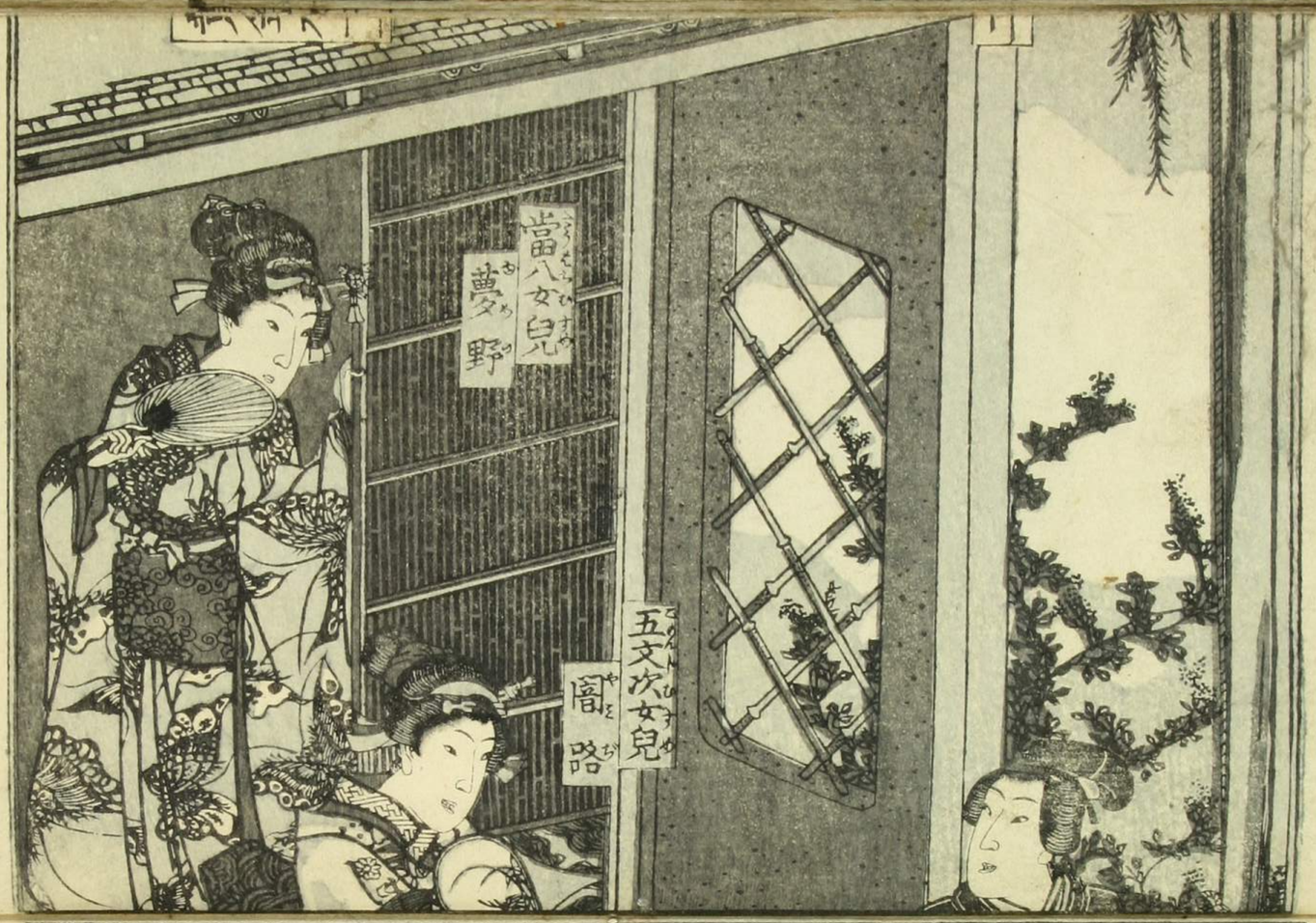
第十編より本編に至るまで。那金妙寺火吏の可起因果応報の物語を説。這い本傳は餘談に似たれど。俚俗の口碑に傳るものなり。復是勸善懲惡の一助とするべき事跡なるを。泄さん吏も遺憾なれど。因に仍て綴しよ。思ひあるをもて紙員足らねば。這篇に説果さず。遮莫十二編に至るべ此一段を結局なさうめ。文左が頓智奇才なる。耳のうしろ話説は暫ぐん巻を開く婦幼童雅紀文が傳記に紀文の出ねば汁粉に餅のなかざるもの。思ひねんるものや。と僅に作者の用意を示せ。

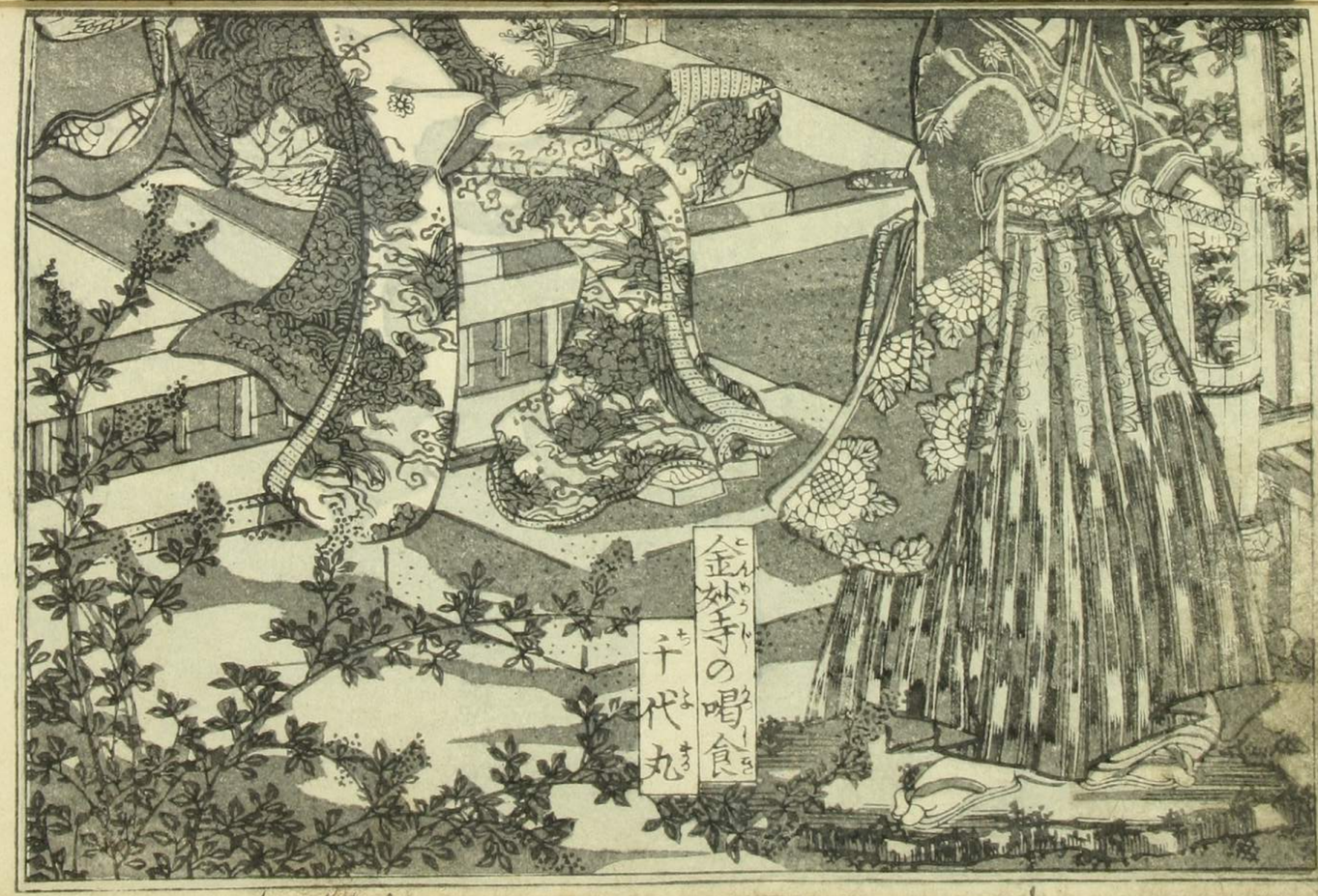
庚申初春良辰

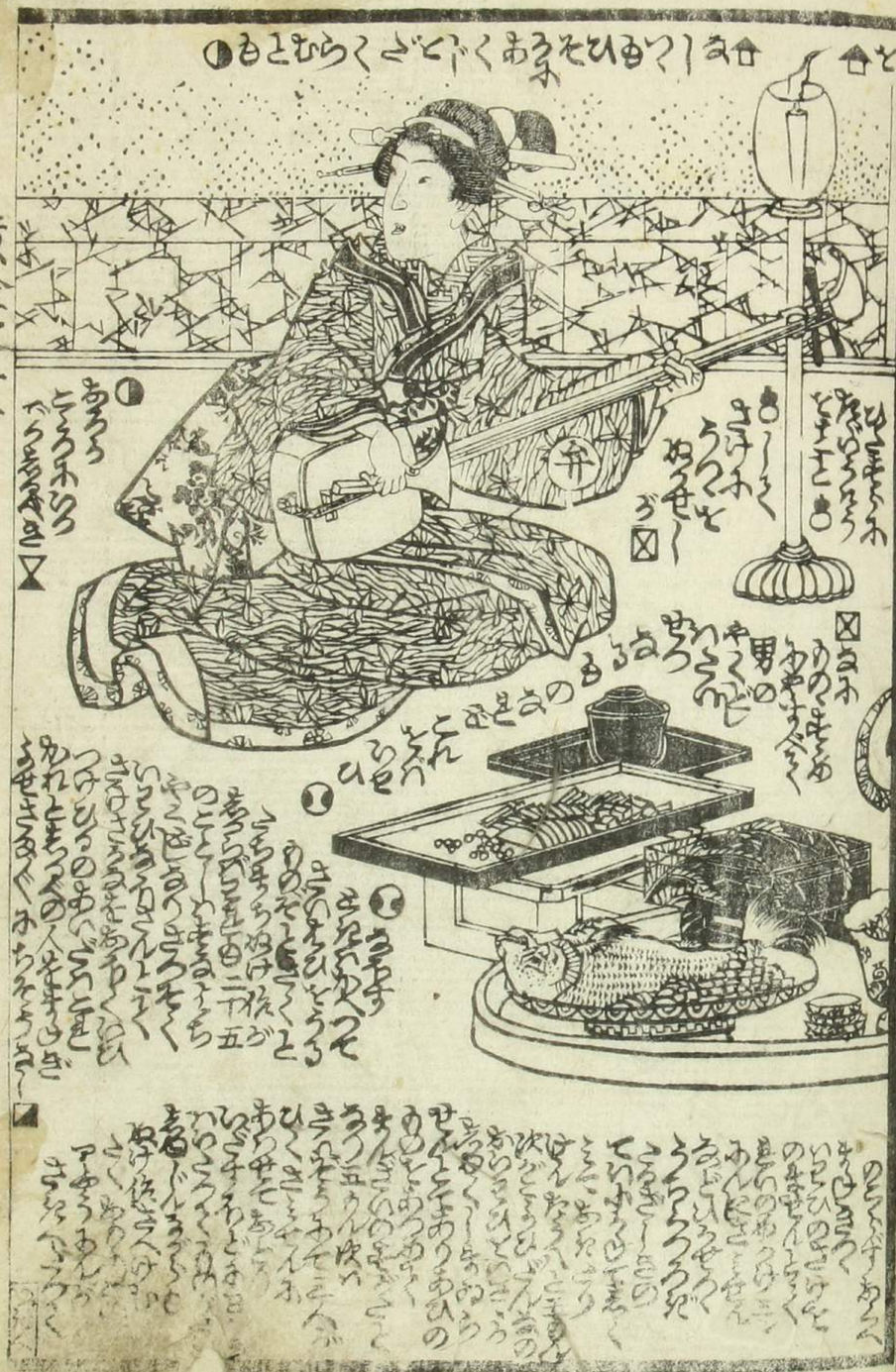
為永春水誌

九十郎
勝山

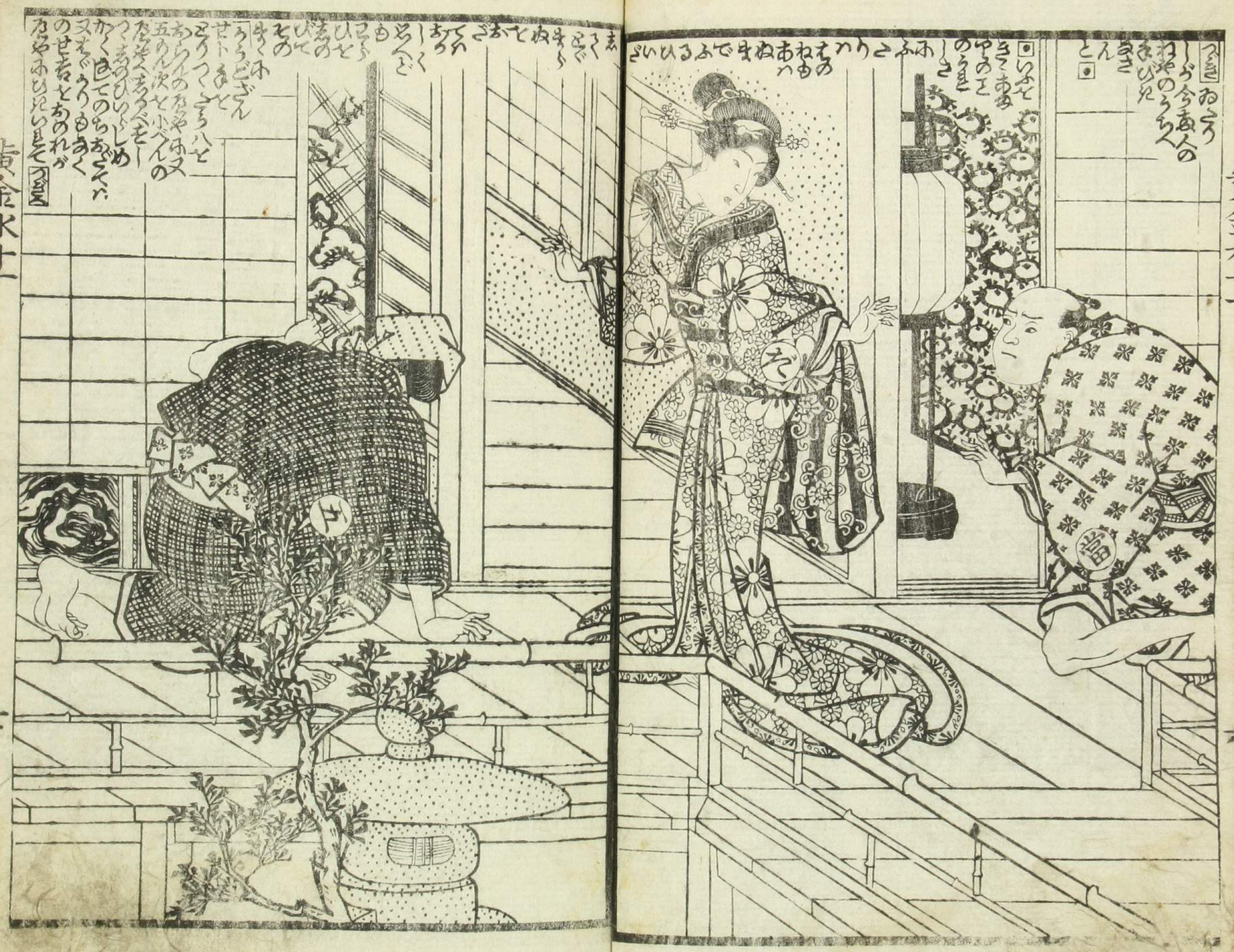
仲之丞

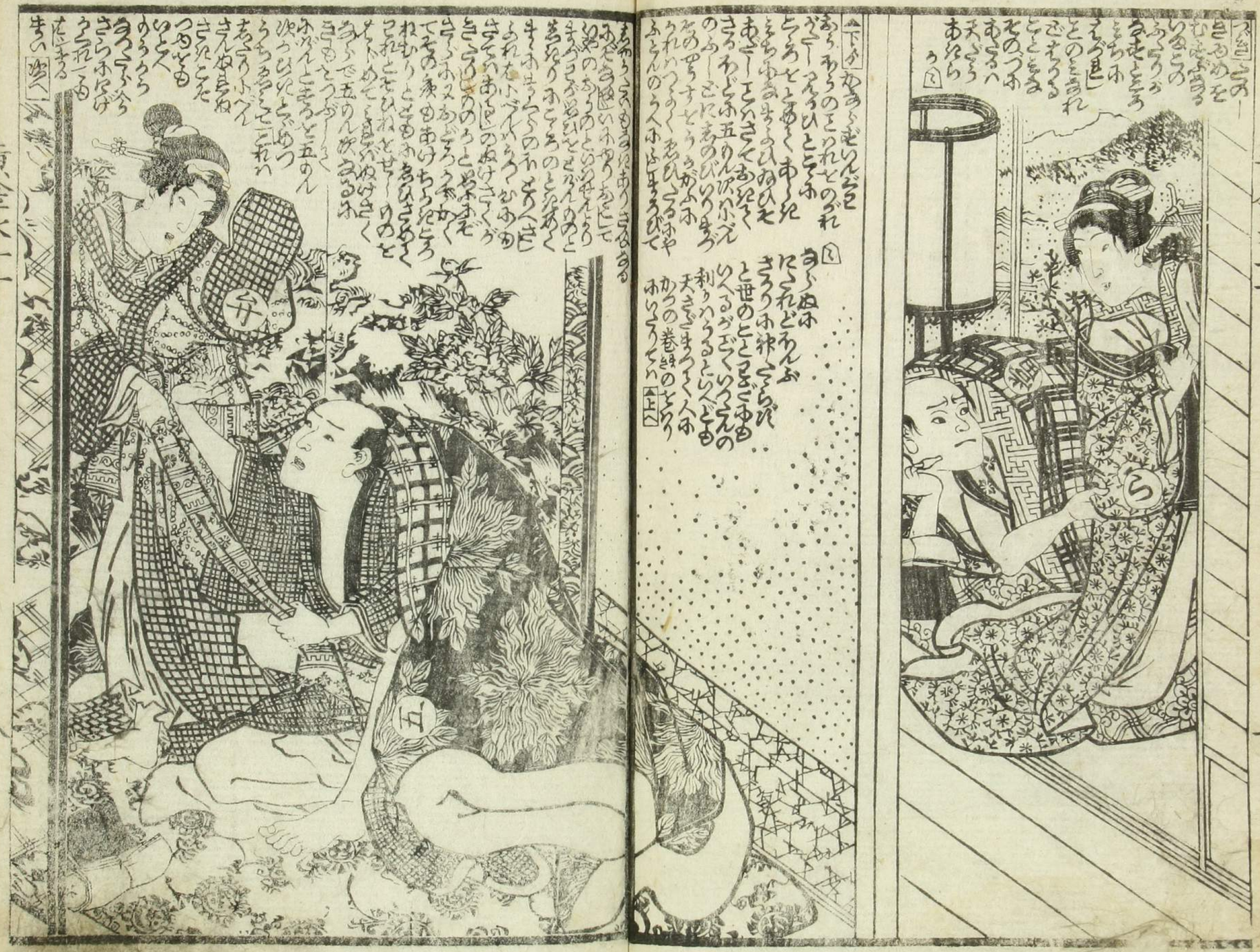

當八女兒
夢野
五文次女兒
冨路

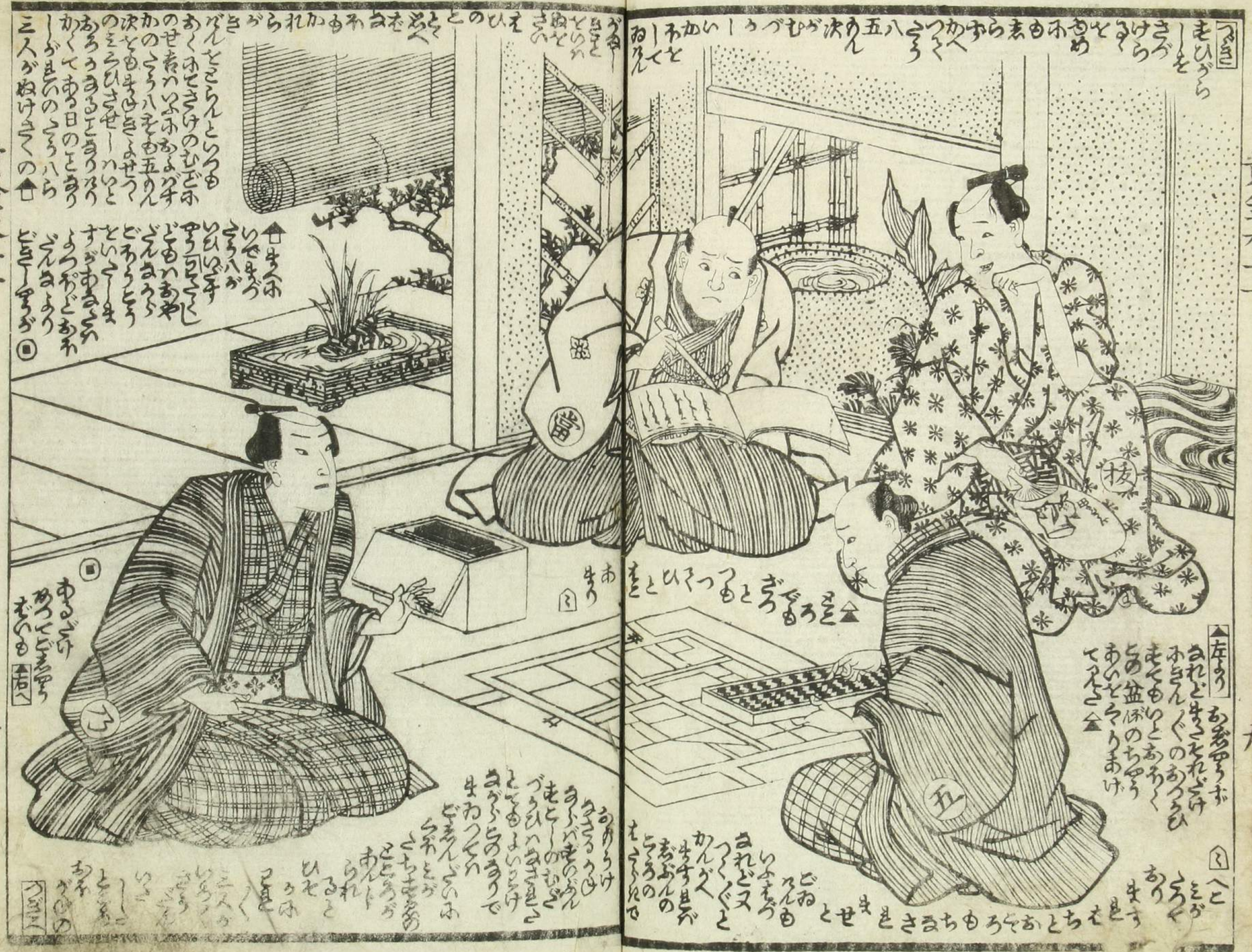

金妙寺の喝食
千代丸



当
ら
五
ん




五


抜
五

つぎ　ろうろうるとしふあのあんべろが
いつたはて　さあ〜まづひとこそりと
あそこ〜　きうしどさく〜しんが
まあつさく〜あのとでのらふうも
のとしませうろとそとそこのん
うらうとろうつく　とのどさうぐん
ふでまう〜といのふぬけさく
うあづたく「あにどうあう〜
ねどもあまもちうとうふと
とうあひがちとむづうう〜く
あうくさこうあうがひまうけの
さうぐんといまづあふふうも
あのとを」シテそのうけいト
こひくさまと五めん次をびうく
をこそうう「さてそのあひがこうそこ
まうしまず　いとのあひがこうそこ
ううまあつさのふきてますれば
ちうとうあ　あのふきてますれば
あよを一町四ちうがくいまうりまあ
のぢあんがでんそれぐんもいうろく
かうう　うるふ　そこでうふうと
いつて　まず　そのおめんとが
やまくうとあよをまうち三千
ろんふあく　ちまと五十ろんがうう
いうあとまいぶんがうろ　ねふとて三千
ろんのまうちうとが十ろんづふ三ツ
ふあうきう　暖空　のえいやつぢう
三十ろんこれしふあつとうけうとと
それのまんふの色引酒の財ごとふ
三字ぶんとよこふあかきくあ

○いざーしまそ　まつへうる
いろんふの遊女　三百人
わどかくさぐいと素人　はの
まつーとせスうう　うる
いろんふいいとあわこ
ある杉　をやーしを
のそふつる　てつうう
きうなあるこの
ま〜うるうう
ろんふいきんぐ
山のどく
ふつと
ぐ
えせ
ふて
らて
いろん
とふこふん
あうけうちと
まあおうまえせい
こうぶんつうせを
あくかこぶん

この上の下の巻へつづく

國芳画　春水作

上の巻より　をとふあるうふをうりこと
ろうまあうとふいあされあびとりやあれ
あうろふあうろいひうーふうさそそのの
うこふあ明地ふあがあふがをとふ
かーあとこそたらんふい
をあうふうあれを
かうてもあうく
とのあうう
ふこまこう
かるふーど
さまれべ
とんる
めん
ぶい
やのそを
いまあうをの
ふさらうふう　ぬれをであとを
つうむうちふうふふふうるうぶいう
うせのかるとふいとうをゆへ

紀文戯まふ智恵の扱を
製作て店の丁雅をもふ
宛え竊にその器量を試
をうど次の本文ふ委ー

○のせをふ
つみてえせをの
うのふーんと
ひさす画圖
ぶを

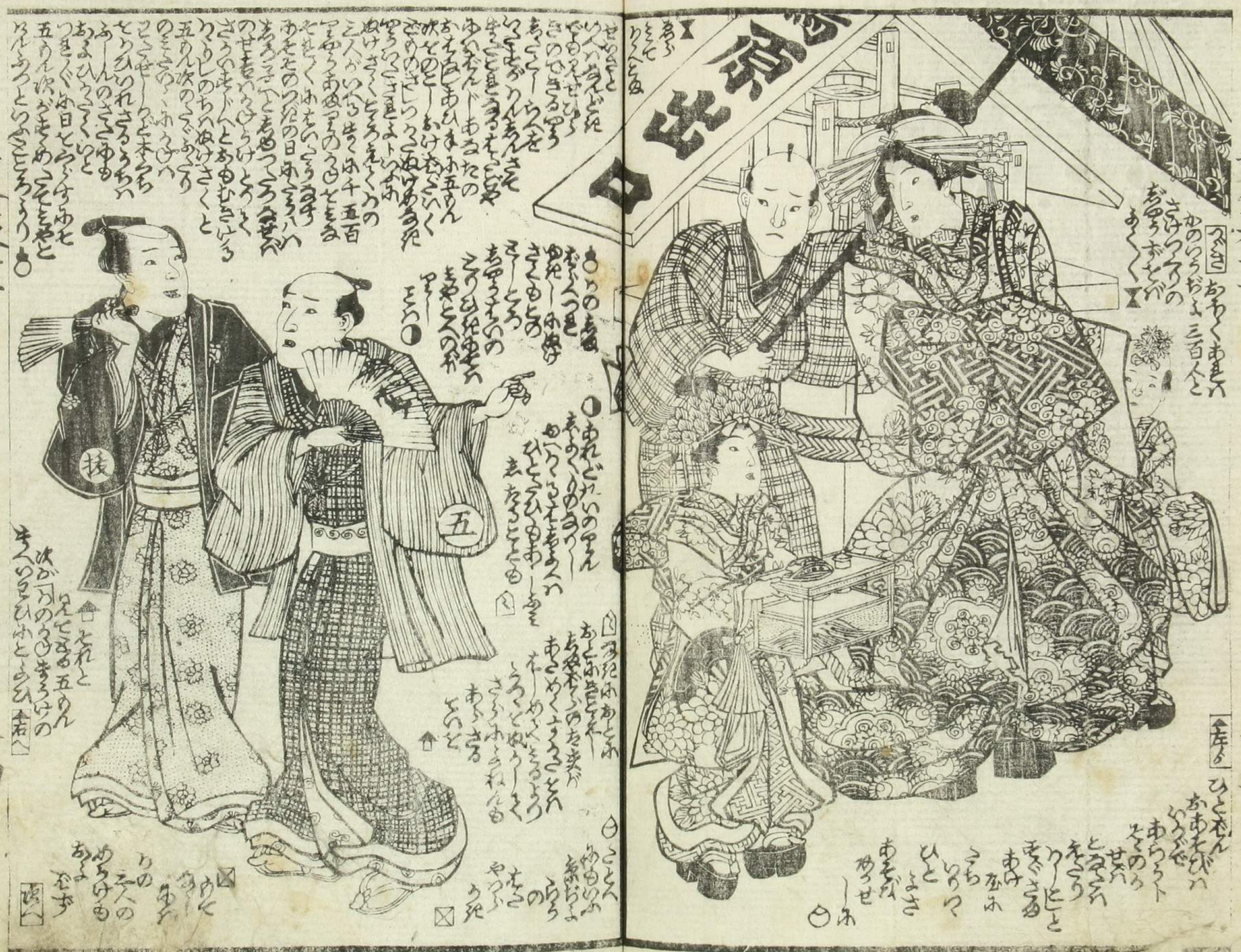
あう〜ふ〜
とーらふ性さ
トいふふさ
ふうふう
のせをぶ
をうこめ

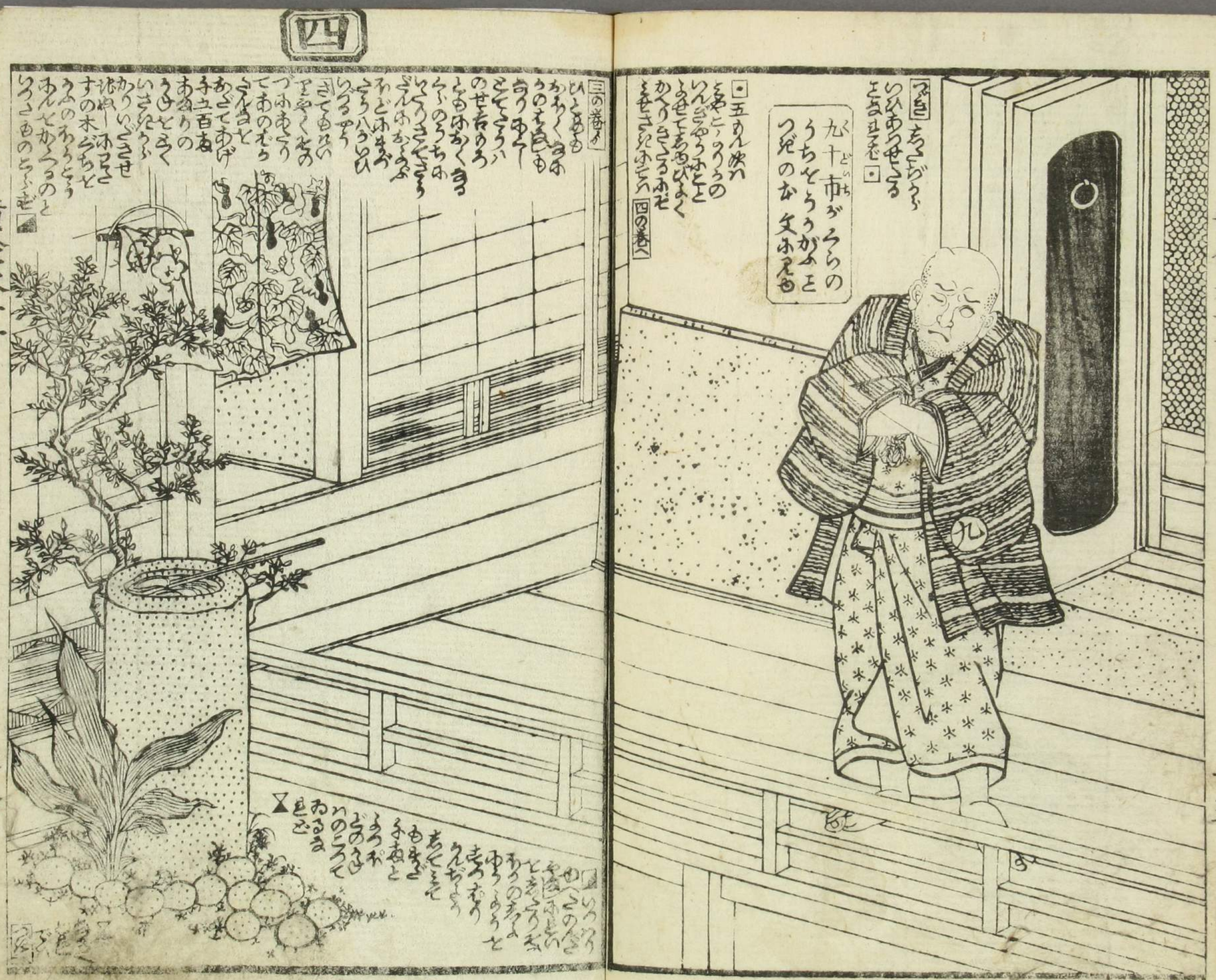
五めん
ぶい
をあ
うへ
ふか
とを
をと
をと
こく
をと
こく

五
扇

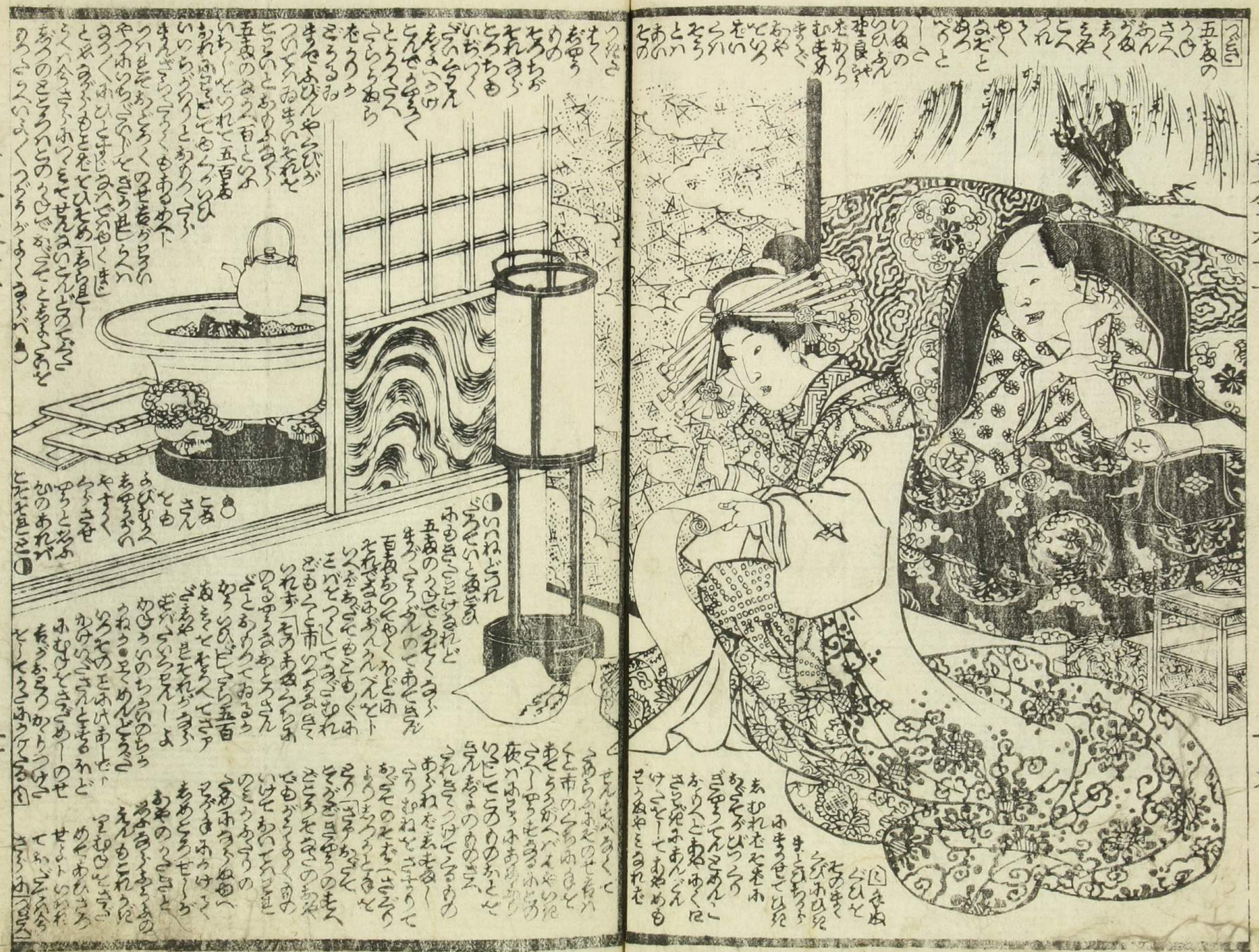
右
参
左
宮
東
田
乃

ひじ山
三条大橋
泊宿
宿


五
技


四

つぎ
からん
かごと
五



黄金水大畫五
十二編上之
爲永春水
芳幾画
甘泉
梓

爲永春水作
一勇齋國芳画
傳書
交來

爲永春水作
上
黄金水大盡盃
編
一恵齋芳幾画
下
甘泉堂梓

十二編下

紀文この花街は歳の夜ふ金を蒔くと言へる吏い物の本はと粗見るに見べ。這口画ふれいたつ世ありて僅さ只うの一事あるも。文左ゞ一期乃栄花い知らまん。實に百萬の貨をゞ遊戯ゞ費ひ果せるの。古今ゝ比類まゝ世ある代今ゝの傳記ゝ編ゝ及ぶ。紙員ゝ薄き冊子ゝ数ゆ多い。はゞ佳境ふいるゝ。去稔い僕ゝ緯ゝ去ゞく。扨に塵をゆく日をゝ。嗣輯ゝ草稿後まゝこのゞ。先ゆ今茲い報ひゝ安んゝ世間の内ゝ筆採ゝ見ん。相ゝかゝゝ世笑覧に備ふ

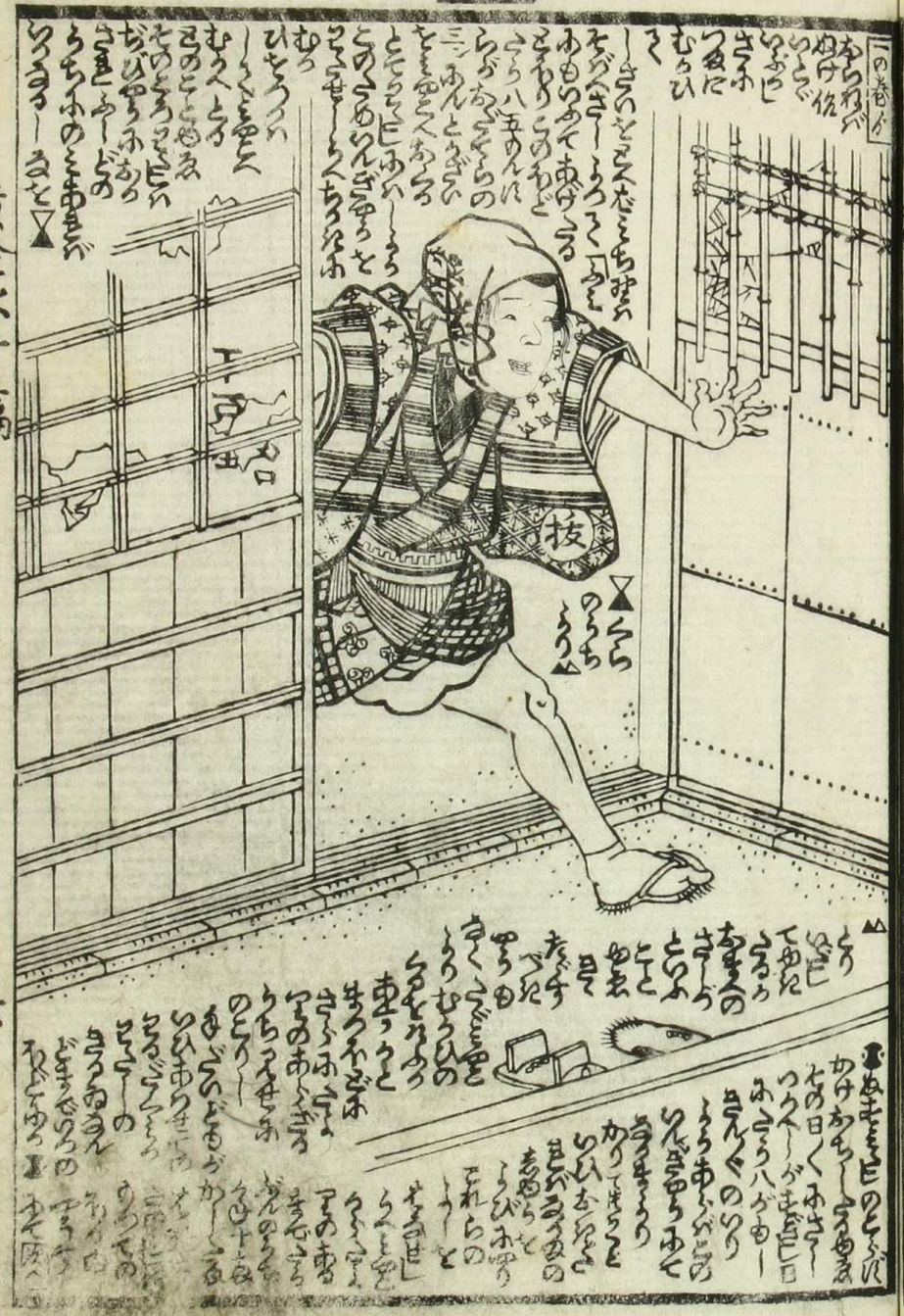
文久二年
戊の孟春

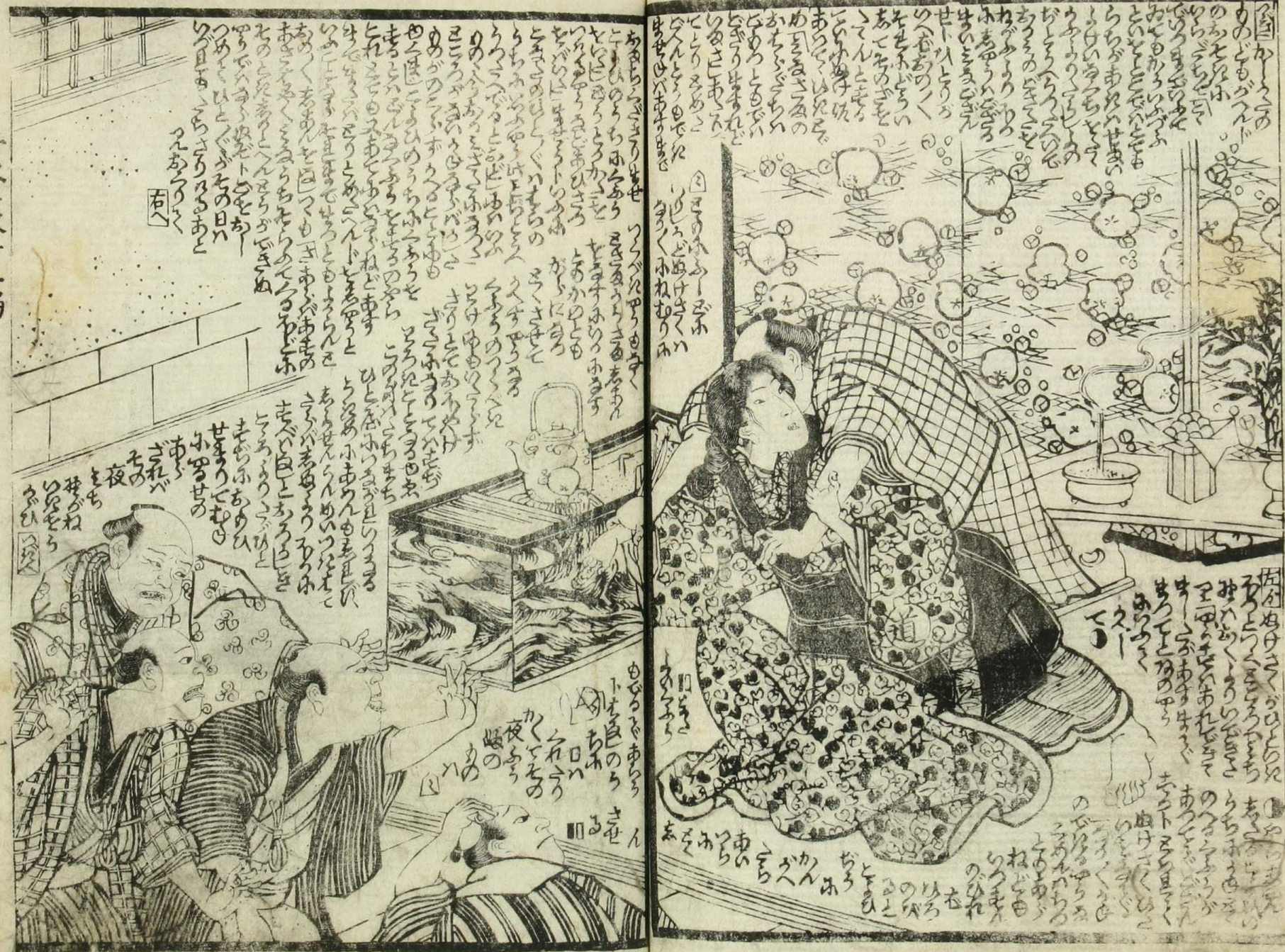
為永春水記

紀文大盡

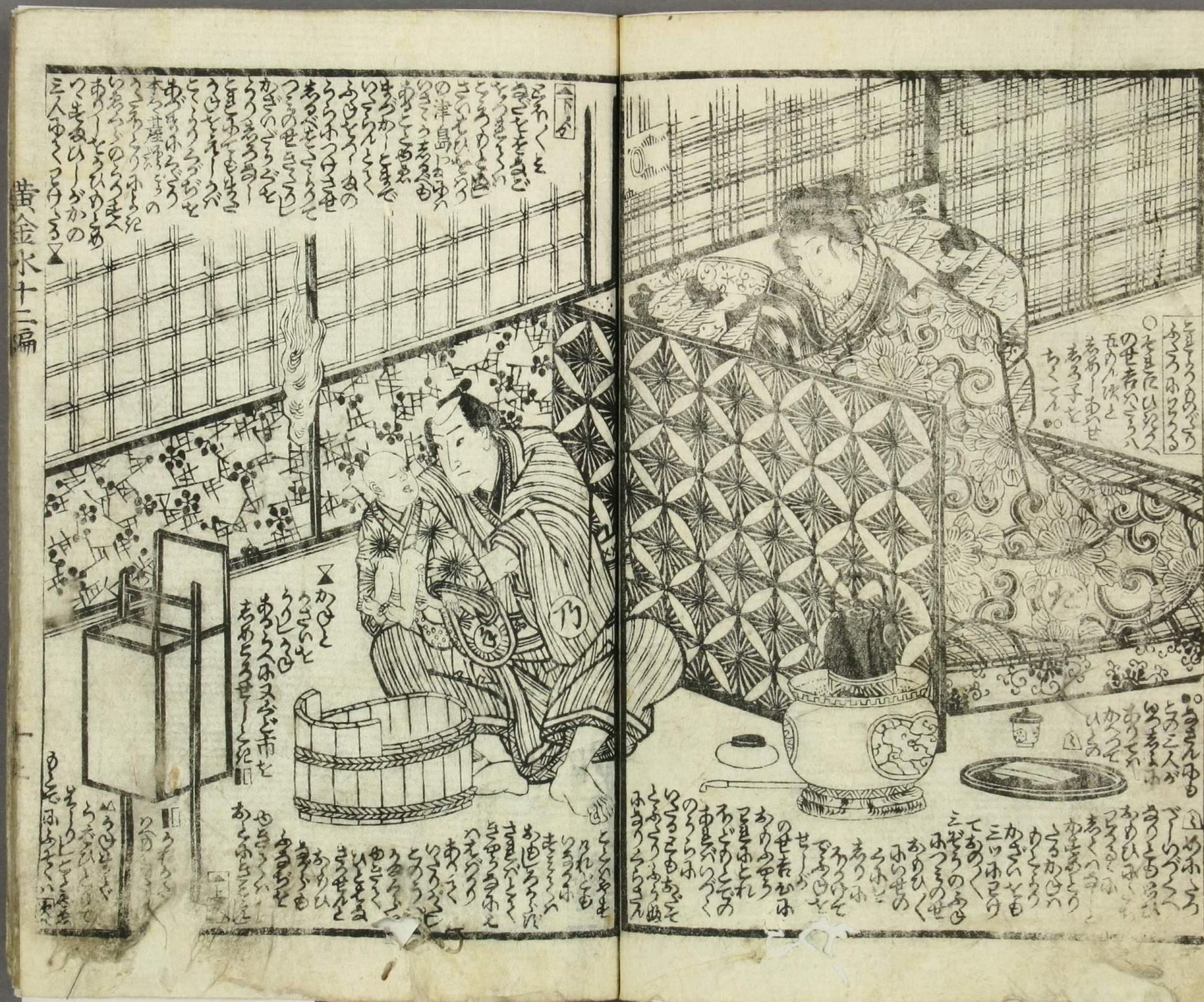
廓の節分に
紀文黄金の
追難する圖
黄金水二編

十二編のつゞき
左右
抜

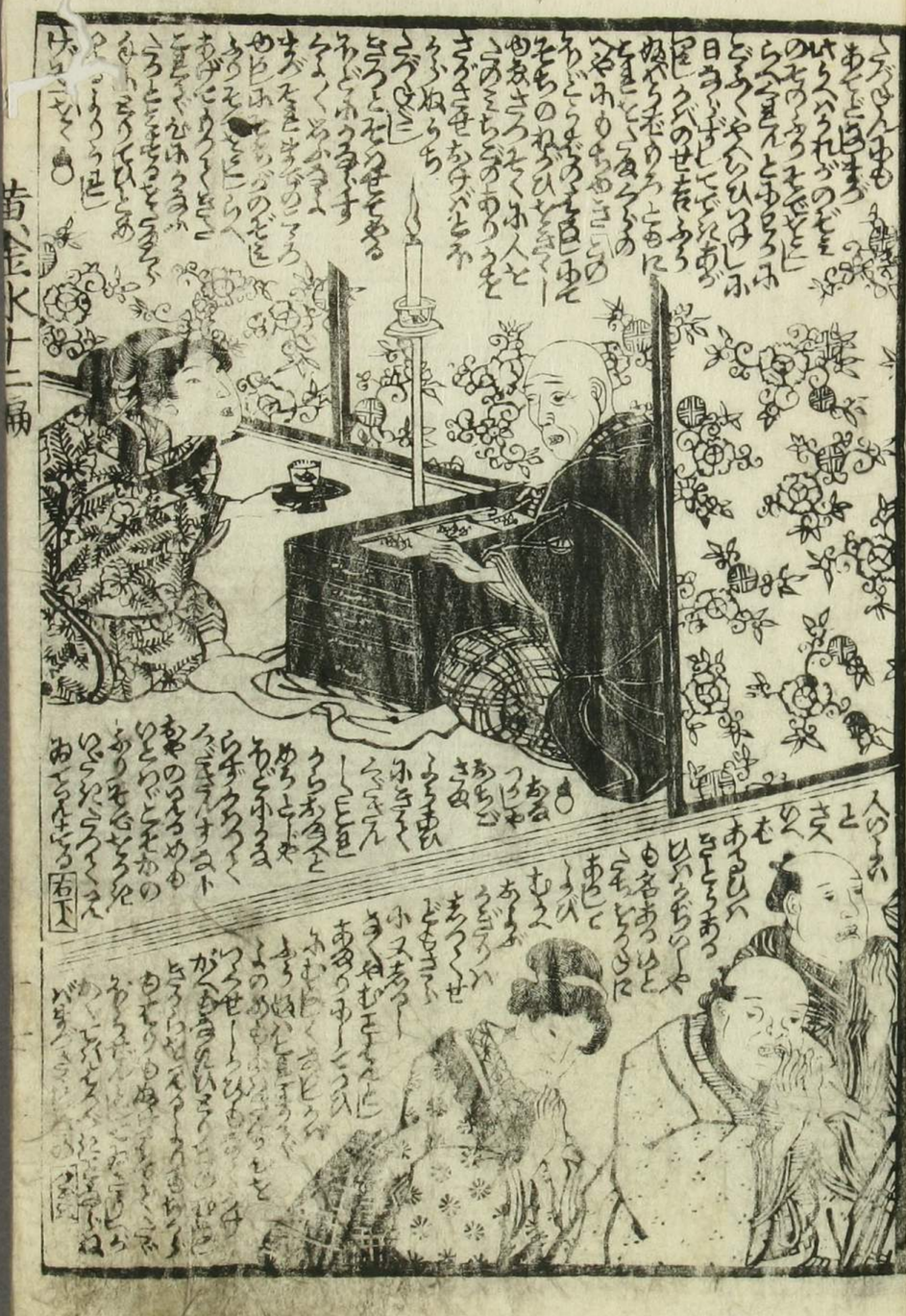

二



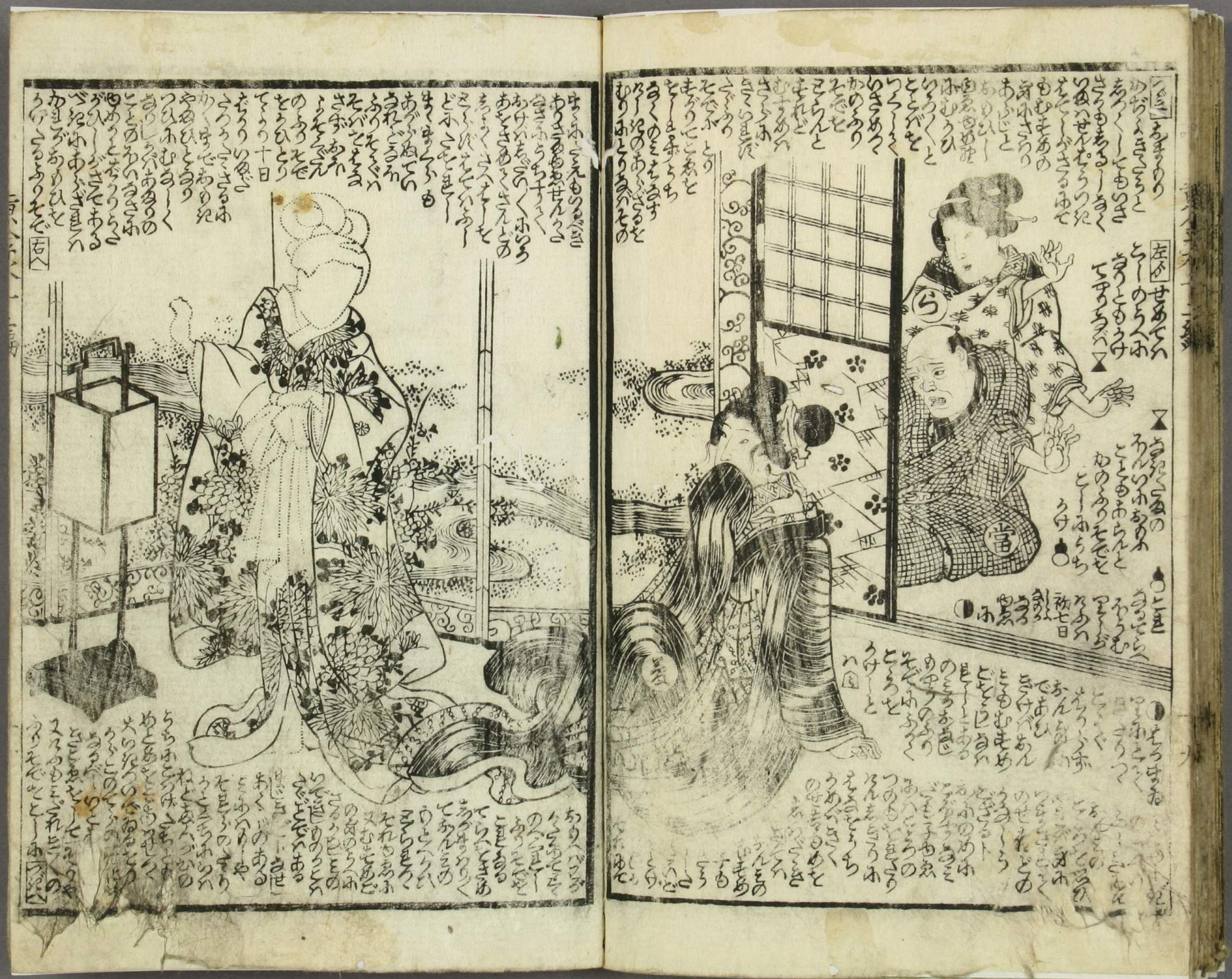
芳幾畫
春水作



一榮堂方壺



麦と米の面ハ當八が
物語ル合せうるべ
ら
當



春水作 芳幾画

朝鮮牛肉丸 大色金二朱 中色金一朱 小色百銅

右の薬效年来和漢近近比似よりの薬選おもしろく名称独書しるく出改出来このもの

下谷さくらせんぎり 専及 春名 深谷氏寄

忠臣貞婦 伊呂波文庫 五編 六編 七編 柳煙亭種久作 一勇齋國芳畫

黄金水六畫盡 十編 十一編 十二編 水春 一勇齋國芳

假名反古 一休さうし 十三編 十四編 十五編 柳下亭種員

地本錦繪 芳紙問屋 甘泉堂 芝神明前 和泉屋市兵衛

大畫盃

十二篇